

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.3
Q1 室内環境			0.31					3.2
1 音環境		2.6	0.15	-	-			2.6
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-			
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-			
2 設備騒音対策		-	-	-	-			
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-			
1 開口部遮音性能		3.0	0.60	3.0	-			
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
1.3 吸音		1.0	0.20	3.0	-			
2 温熱環境		2.9	0.35	-	-			2.9
2.1 室温制御		3.7	0.50	-	-			
1 室温	冬期、夏期の室温維持可能な設備を備えている	5.0	0.38	3.0	-			
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	-			
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-			
5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
6 個別制御		-	-	-	-			
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		1.0	0.20	3.0	-			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-			
3 光・視環境		3.3	0.25	-	-			3.3
3.1 昼光利用		2.4	0.30	-	-			
1 昼光率		2.0	0.60	3.0	-			
2 方位別開口		-	-	3.0	-			
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	-			
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-			
1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
2 昼光制御		3.0	1.00	3.0	-			
3 映り込み対策		-	-	-	-			
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	-			
3.4 照明制御	作業単位での照明制御と個別、センサー制御を配慮	5.0	0.25	3.0	-			
4 空気環境		4.0	0.25	-	-			4.0
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-			
1 化学汚染物質	建材等はF 等級品採用。又、VOC発散量少のものを採用	5.0	1.00	3.0	-			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.6	0.30	-	-			
1 換気量	建築基準法を満たす換気量の1.2倍以上を配慮	4.0	0.33	3.0	-			
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-			
3 取り入れ外気への配慮	給排気口離隔6m以上を確保	4.0	0.33	3.0	-			
4 給気計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理		2.0	0.20	-	-			
1 CO ₂ の監視		1.0	0.50	-	-			
2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.6
1 機能性		3.3	0.40	-	-			3.3
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-			
1 広さ・収納性		3.0	0.33	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	3.0	-			
3 バリアフリー計画		1.0	0.33	-	-			
1.2 心理性・快適性		4.6	0.30	-	-			
1 広さ感・景観	天井高3m以上の確保と外壁サッシを設置	5.0	0.33	3.0	-			
2 リフレッシュスペース	喫煙室、休憩室、自販機コーナーを確保	5.0	0.33	-	-			
3 内装計画	建物全体のコンセプト・機能の明確化、照明計画と内装計画の実施	4.0	0.33	-	-			
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	食品衛生管理を基本に、建築仕上材の選定と仕様に配慮	4.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.2	0.31	-	-			3.2
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-			
1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.33	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-			

2.4 信頼性			4.2	0.19	-	-	
1	空調・換気設備	空調換気の重要度区分と運転、熱源種の二重化、吊り配管に配慮	5.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	節水型器具採用、配管系統区分、井水使用有り	5.0	0.20	-	-	
3	電気設備	非常用発電設備設置、高床下ビット内への電気配線敷設に配慮	4.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	通信手段の多様化と高床下ビット内へのケーブル敷設に配慮	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			4.4	0.29	-	-	4.4
3.1 空間のゆとり			5.0	0.31	-	-	
1	階高のゆとり	階高5m以上を確保	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	整形な建物形状とし、ゆとりある内部レイアウトに配慮	5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		4500N/m ² 以上を確保	5.0	0.31	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.6	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性	外部空調配管、天井内スペース確保により更新の容易性に配慮	4.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性	マシンハッチ設置、設備更新時に建物機能維持可能	5.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.39	-	-	3.2
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		既存樹木(高木)を保存	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.7
1 建物の熱負荷抑制		PAL低減率34.1%	4.9	0.03	-	-	4.9
2 自然エネルギー利用			3.5	0.28	-	-	3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用	自然換気の採用	4.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		ERR値18.8%	4.1	0.42	-	-	4.1
		集合住宅以外の評価(ERRによる評価)	4.1		-	-	
		集合住宅の評価	3.0		-	-	
4 効率的運用			3.5	0.28	-	-	3.5
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	運用、維持、保全の基本方針を計画(HACCP対応)	4.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護			3.8	0.15	-	-	3.8
1.1	節水		3.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		4.3	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	施設給水について、井水を70%以上利用。	5.0	0.67	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.63	-	-	3.4
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上げ材は容易に分別可能	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.68	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率の抑制	3.3	0.33	-	-	3.3
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1	大気汚染防止	発生濃度は法、条例等基準に対し大幅に抑制	4.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		4.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	工業団地による雨水抑制や、基準以上の雨水浸透機数の採用	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	従業員用バスの運行、駐車場、駐輪場の場内確保と出入口に配慮	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミ種類別保管と定期的排出、減量化を配慮	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2	風害・砂塵、日照障害の抑制		3.3	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制	日影影響を極力無くす配慮をした建物配置	4.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	